

# 本音 インタビュー

NPO法人県自然史博物館  
ネットワーク理事長

天岸 祥光氏

## 自然系博物館 念願の開設へ

県は2015年度、旧県立静岡高(静岡市駿河区)に「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を開設する。自然系博物館の設置を長年要望してきたNPO法人県自然史博物館ネットワークの活動は、施設の運営支援へと発展する。ミュージアムの意義と望まれる在り方を聞いた。

—県立の自然系博物館は

なぜ必要か。

「静岡県は世界的にも珍しい複雑な地形で、それに

# 教養と活用力 育む場に

—県が昨年度まとめた基本構想をどう評価するか。

「NPOとして描いていた以上の内容だった。私も加わった基本構想検討委員会で、博物館の専門家から集めた資源(資料)を見せて現代の問題点を浮かび上がらせる機能を」という提案があり、感動した。自然環境を見据えた情報を世界

に発信できる拠点に育てたい。川勝平太知事と安田憲委員長(県補佐官)が発案した館の名称も、両氏の情熱と意気込みを感じた」

—静岡県の博物館として、どのような特性を備えるべきか。

「自然科学の教養と知識、さらに活用能力を涵養(かんよう)する生涯学習の拠点でありたい。小学校などへの出張博物館、バックヤード業務の一部公開など



あまぎし・よしみつ 静岡大で理学部長、学長を歴任し2007年退官。11年からNPO法人県自然史博物館ネットワーク理事長。専門は宇宙プラズマ物理学。東京都出身、74歳。

で、県民がより深く地球環境と自然史を理解できるようになりたい。われわれNPOは県の研究職、教育職とともに事業に携わる。大学、高校などを拠点に長年、静岡に根付いた調査・収集・保管に当たってきた会員の力を生かす。県内外の自然系グループとも連携し、ソフト面を充実させたい」

—開館への準備状況は。

「6月末に旧静岡高の施設工事が完了した後、静岡市清水区で保管している岩石・化石、植物、昆虫、動物、魚類など30万点超の資料を移す。引っ越し準備を担うNPO会員は、念願がかなうとあって張り切っている。実際の運営では、県のスタッフとの一体感を大切にしたい」

(聞き手)清水支局・田辺貴一)